

面接試験

面接試験は、受験者の応答内容や面接態度から、会社や職務への適性を判定することを目的として行われています。受験者からすると自分の個性や長所を面接官にアピールする絶好の機会ですので、就職活動の集大成のつもりで臨む必要があります。

面接試験のステップ

面接試験は段階を踏んで、一次面接・二次面接・三次面接へと進んでいきます。通常、内定までに平均して3～4回行われます。

一次面接

入社3年目くらいの若い人事担当者や若手社員が、面接官になる場合が多く、提出した履歴書、エントリーシートなどにより、自己紹介や志望動機について述べさせることが多く、自己紹介や志望動機、性格や趣味、学生時代に力を入れたことなどについて質問されます。若手社員の視点で、その企業の一員としてふさわしいかどうかを総合的に判断されます。



二次面接

部長や課長などの役職者が面接官となり、専門分野の知的レベル、志望する職務内容などについて、かなり具体的な質問が出されることが多くなります。中堅社員の視点で総合的に判断されます。



三次面接

重役クラスが面接官となり、最終面接となる場合が多く見られます。一次・二次面接で出された質問が繰り返される例もあり、この場合応答内容に矛盾が生じることも多々ありますので、対応できるようこれまでの面接内容を整理しておく必要があります。また、意思確認の意味合いも濃くなりますので、明確な志望動機が必要となります。ここで不合格となるケースも少なくありません。

1.当日は時間の余裕をもつ

朝のラッシュ時は、通常よりも時間がかかります。会社へ15分前には到着できるように、早めに家を出ましょう。会社へ着く前に駅などのトイレに行き、再度身だしなみのチェックを忘れないようにしましょう。

2.矛盾のないように

会社訪問カードは、提出してしまうと後から読み返すことができません。面接のときに話が矛盾して恥をかかないように、記入した内容を簡単にメモしておくといでしょう。

3.会社を出ても気をゆるめないように

試験が終了した後は、緊張感が途切れ、ホッと一息つきたいところですが、控え室でのおしゃべりや、携帯電話で話す姿は、企業の誰が見ているかわからないので、あまり好ましくありません。会場を出たあとも試験は続いているという気持ちを忘れないようにしましょう。

ワンポイント アドバイス